

# 笑顔

熊本市高齢者支援センター ささえりあ帯山  
 熊本市中央区保田窪1丁目1-33 第2大田ビル1階  
 第44号 電話:096-241-0230 FAX:096-241-0232  
 E-mail:sasaeriaobiya@kyouninkai.jp  
 平成31年1月 http://www.kyouninkai.jp/obiya/



## 謹賀新年



旧年中は格別のお引き立てを賜りまして、誠に有難うございました。



さて、昨年は「在宅医療・介護連携」、「生活支援・介護予防」、「権利擁護／認知症支援」の事業におきましては、認知症の方々の支援等を含めた権利擁護を基盤に据え、より統合化したかたちで進めてまいりました。その一つは「在宅医療介護勉強会」の開催です。今回は、これからの在宅医療についての基調講演後、具体的な事例を用いて本人が地域に住み残る道筋とサロン利用者の方が住み残るための道筋をイメージしながら、医療とのかかわりを考えてみました。まさに「サロンの多機能化」への展開になります。二つ目は「ウイズ・帯山3・9会」（権利擁護支援のグループ）で、実践事例を検討したことです。これは、今後の「地域共生社会」の基盤づくりを推進していく機会になる印象を持ちました。これも多くの皆様方のお力であります。今年も「自立支援」を実践の価値に据え、「地域で支え合える環境づくり」の取り組みを充実させて参りたいと思います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

センター長 那須久史



明けましておめでとうございます。今年も、「ささえりあおびやま」をお題に、新年恒例の「あいうえお作文」を考えました。皆さま、今年の出来はいかがでしたでしょうか？

**ま** 邁進してまいります  
**や** やがて来る未来に向けて  
**び** 美男美女で(?)  
**お** 帯山中学校区で  
**あ** ありのままに受け入れて  
**り** 理想と現実を  
**え** 得手不得手を認め合い  
**さ** 支え／支えられる垣根を超え  
**さ** 支え合える地域をめざし

## 平成30年12月25日 居宅包括連絡会 フォレスト熊本にて



### ～当事者の「語り」からの自己理解と他者理解～

平成30年12月25日にフォレスト熊本にて、第5回居宅包括連絡会が開催されました。今回は、『当事者の「語り」からの自己理解と他者理解』というテーマのもと高機能自閉症・アスペルガー当事者会シェアハートから3名の方に来ていただきました。3人の方がそれぞれ感じてきた生きづらさや葛藤、つらかった経験、よかった経験、障がいを受け入れるまでの過程、支援者に求めることなどをご本人の言葉でお話ししていただきました。

辛い経験を乗り越え、ご自身を受け入れ、周りの人や社会へ適応できるように努力し続けている姿を知りました。参加されたケアマネジャーや相談員など専門職の方々も体験談を聞きながら**当事者への理解や自身の援助観**について振り返る機会になりました。参加者からは、向き合い方を学べた、生の声を本人から聞きとてもいい学びになったとの声がありました。今後も地域で暮らす人々が安心してらせる支援ができるように学びを深めていきたいと思っております。

## ウイズ・帯山3・9会



YMCA東部センター 平成30年9月21日

第2回目の地域の役員さん参加の勉強会を開催しました。昨年度に引き続き、地域の支え手である民生委員の方をはじめ校区保健師、日頃より勉強会に参加されている弁護士や司法書士の方と一緒に事例検討のグループワークを行いました。

今回はくまもと青明病院 医療相談・地域連携室 精神保健福祉士より事例提供があり、「**精神疾患を患った方が地域で生活していくには**」というテーマで話し合いをしました。地域の方には、今回のケースを通じて一人の患者さんに関わっている職員の動きや働きかけ、行政との関わり合いやインフォーマルな支援団体等前回の会以上により事例を深める機会となったのではと思います。熊本県では、平成24年4月より「障がいのある人もない人も共に生きる熊本づくり条例」を施行しています。先の条例を要約すれば、「だれでんかれでん仲良くして暮らしていきますばい」と共生社会の実現を目指しています。今後も定期的な会を重ねる中で学びを深めていく必要があるなあと感じました。



### 編集後記



2019年、今年は「平成最後の年」になります。次の年号は何になるのか、気になるところです。翌年には2020年東京オリンピック、2025年には大阪万博とイベントが盛りだくさんです。皆さまはどんな年にしたいですか？「亥年」にちなんで、地域からのSOSあれば「イノ」一番に相談に乗れるよう、今年も頑張っていきますので宜しくお願いします♪  
 (倉岡美奈)

### お知らせ

#### ささえりあ帯山に入職しました!



10月1日に入職致しました「山田尚靖」と申します。地域の皆様が安心して暮らして頂けるよう、少しでも力になればと思っております。皆様に何かとご面倒をおかけするかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。



## 帯山西校区社会福祉協議会主催の研修会

平成 30 年 12 月 6 日  
◎ 帯山西コミュニティセンター



今回は、熊本保健科学大学 保健科学部リハビリテーション学科 准教授 吉田真理子先生をお招きされた「楽しく予防！認知症」についてのご講演に、参加させて頂きました。

先生は、認知機能の低下をできるだけ遅らせる努力をする。低下が疑われるときは、病院に行く。それでも、認知症になったら、できるだけ楽しく過ごせるようにする。それと、介護される方にも楽しく過ごしてもらうことが大切だと言われていました。その後、「**脳の健康に必要なもの**」としては、**運動、栄養、脳を使う、人と関わる**ことも必要で、さらに脳の前頭前野（意欲、創造、実行に関わる分野）を意識的に使うと、記憶、注意力、機転などの能力（脳力）が改善されると言われていました。この脳の部分を使うためには、いままでやったことがないことをする、いつもより難しいことをするなどです。何より、**習慣化して、仲間をつくりながら脳トレをすると長続きする**そうです。皆さんも普段の生活から少しずつ実践してみてください。



## 合志市須屋コミュニティと帯山校区との交流会

平成 30 年 11 月 27 日  
◎ 帯山6町内公民館



須屋コミュニティは、これまで子どもサロンや高齢者サロン等を展開して来られました。しかし、今後ますます高齢化していく社会の中で**小地域福祉活動の必要性を感じられ、『高齢者の見守り』を展開したい**と思い、帯山校区の取り組みを参考に今後の地域福祉活動の発展を図っていきたいとのことでした。

帯山校区社会福祉協議会・久富会長より、帯山校区の概要の説明があり、帯山校区2町内自治会・吉田会長、5町内自治会・小島会長、7町内自治会・大倉会長からそれぞれの校区において取り組まれている実践報告がありました。

最後は須屋コミュニティと帯山校区のこれまでの自治会活動からの良い点や課題などの意見が交わされ、参加者の皆様が時間を忘れてしまわれるほどの白熱した情報交換会となりました。

## 託麻原校区サロン交流会

平成 30 年 10 月 4 日  
◎ 水前寺共済会館 グレーシア

参加者は託麻原校区の地縁組織を中心にサロン代表者をはじめとする自治会長、民生委員の皆様、帯山・帯山西校区の地縁組織代表の皆様、地域の医療機関やサービス事業所、熊本市の行政職員の方々です。各サロンの担い手の方から、どなたでも参加できるつどい型サロン、幼稚園と高齢者など協働で行う共生型サロン、町内や校区をまたいで参加できる協調型サロン、地域の方のニーズに合わせて結成されたお助け隊のある訪問型サロンの発表がありました。各町内で活発な意見交換が行われ、今後を見据え町内それぞれがよりよいサロン作りの為の情報を得られたのではないのでしょうか。最後には熊本学園大学社会福祉学部准教授の黒木邦弘先生より「サロンを運営するうえでいろんな思いがあります。参加者、担い手ともに楽しくできるように、『**地域の中に役割を担える人を見つける**』『**協働して新しい活動の場をつくっていく**』ことができるように行政やサービス事業所の手を借りながら地域でできることを考えていきましょう」と話がありました。



## 在宅医療介護連携勉強会 (3校区合同地域ケア推進会兼学習会) が開催されました!

病気や障がいがあっても、  
住み慣れた地域で生活したいあなたへ  
～これからの在宅医療とサロンの可能性～



平成25年度から行われている当勉強会ですが、今回は、校区の社協や自治会をはじめ、圏域事業所や行政、学園大生など幅広い参加をいただき、第1部は基調講演、第2部はワークショップ形式で進められました。第1部では、おびやま在宅クリニック院長の宮崎久義先生に、現在の医療や介護の概要から在宅医療・訪問診療についてわかりやすくご講演いただきました。第2部は熊本学園大学の黒木邦弘先生に進行して頂き、グループ形式でのワークショップにて、宮崎先生へ質問したいことや、これまで地域に貢献してこられた2人の会長様の話をもとに、もし、そのような方が**病を得て、サロンに参加出来なくなってしまうたら、地域は何ができるのか**、を話し合っていました。活発な意見交換がなされ、2時間半という時間が、あっという間に過ぎた印象でした。参加者にご記入いただいたアンケートにも有意義な時間だったとの感想が多かったように思います。今後、病気や障がいがあっても地域で暮らしていくために、地域がいかに支え、受け入れていくか、考える良い機会になったと思います。宮崎先生のご講演のなかで、「**ときどき入院、ほとんど自宅**」という言葉がこれからの理想の形だと感じた方も多かったと思います。



## 地域ケア会議



平成30年11月12日に地域ケア会議が開催されました。地域ケア会議の目的は、個別ケースの支援内容を話し合う事で地域の課題を抽出し、地域づくり、資源開発並びに政策形成などにつなげていくことにあります。ひいては“地域での尊厳あるその人らしい生活の継続”となることを目指しています。地域ケア会議には、①課題検討型地域ケア会議と②自立支援型地域ケア会議の2種類があり、平成30年11月22日は、②自立支援型地域ケア会議が行われました。今回は、圏域内の居宅介護支援事業所である水前寺しょうぶ苑の平野ケアマネジャー様からケースを提出いただき、リハビリや栄養、障がい者支援などの各専門分野から自立支援のアドバイスをいただきました。会議終了後の振り返りでは、「アドバイスを受けてのご利用者の今後の生活が楽しみだ」という感想もあり、**1つのケースが他のケアマネジャーや専門職種の学びの機会**になっている事を改めて感じました。平成31年以降も地域ケア会議は定期開催していきますので、個別ケースで学びながら“地域の心と体の健康づくり”に向けて取り組んで参ります。